

医療事業戦略: アジア新興国市場

アジア諸国における 内視鏡医の育成支援および 医療基盤強化への貢献

中国に続き、今後医療機器の普及が急速に進むと考えられるアジア新興国市場。
医療従事者へのトレーニングをさらに強化し、医療技術基盤の発展に尽力してまいります。

イメージ写真(タイ)

東南アジアのサービスセンター・トレーニングセンター・製造拠点

約 19,000人

FY2023における、
当社関わった
トレーニングコースへ参加した
アジア・オセアニア地域の
医療従事者の人数*6

約 50年

当社が東南アジアにて
自社の販売体制を
構築してきた年数*7

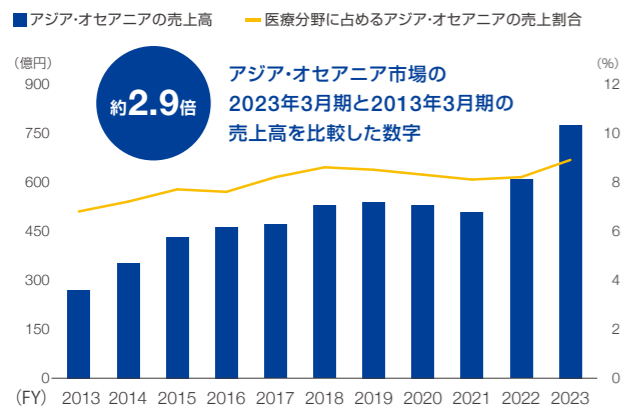


*6 当社主催に加え、NGO、学会や病院との共催等も含む、オンライン/ハイブリッド/オンサイトトレーニングコースの合計参加人数
*7 1975年にシンガポールで駐在員事務所を開設

中国に続く有望市場と見られるインド

国連人口基金 (UNFPA) が2023年に発表した世界人口白書*1では、2023年4月にインドの人口が約14億3,000万人に達することが報告され、今では中国を上回り、世界で最も人口の多い国となっています。人口の増加に加え、経済発展の速さから、今後がん罹患患者数がさらに増えることが見込まれる中、人口10万人あたりの内視鏡医数は日本が28.2人に対してインドは0.7人*2と、がんの早期発見や治療に欠かせない内視鏡の精密診断を行える医師の数が不足しています。がん患者の生存率は先進国より低く、例えば大腸がん患者の5年生存率は、日本では約70%*3に達しているのに対して、インドでは約30%*4となっています。こうした社会課題に対して、オリンパスは、現地の学会や病院と連携し、年間150回以上にもおよび内視鏡トレーニングの支援や、医療機器の迅速な修理サービスを提供しています。今後も医療機器の普及が急速に進むと考えられるインド市場において、内視鏡医の育成を通して、内視鏡診断・治療の普及・発展に貢献してまいります。

医療分野におけるアジア・オセアニアの売上成長推移



アジア諸国における内視鏡医育成の支援

2016年には東南アジアの医療従事者をターゲットとしたトレーニングセンターをタイに設立しています。講演ホール、実際の手術室や内視鏡室を模したトレーニングルームなども備え、当社が主催する手技や製品のトレーニングに利用するだけでなく、各国・地域の内視鏡学会、外科各分野の学会などが主催するトレーニングにも利用され、患者さんの診断や治療の向上に貢献する場となっています。

2023年3月期においては、EVIS X1やVISERA ELITE IIIの導入に伴うトレーニングに加え、NPO法人のMESDA*5などの学会との連携によるワークショップなどの活動も多く実施しています。オンラインやハイブリッド型のトレーニングプログラム

アジア・オセアニア地域の国別売上高比率



人口10万人あたりの内視鏡医数*2

タイ	3.1人
マレーシア	1.8人
ベトナム	1.1人
インド	0.7人
フィリピン	0.4人
インドネシア	0.2人
[参考] 日本	28.2人
[参考] アメリカ	4.7人
[参考] 中国	2.8人

の展開により、トレーニング参加者は増加しました。東南アジアの多くの国では、依然として内視鏡医や外科医の不足、医療技術の向上の余地があるなど課題が残る状況です。当社は、トレーニングセンターにおいて医療従事者に向けた教育やトレーニング

グの場を提供することで、東南アジア諸国での内視鏡医の普及、および医療技術基盤の発展に尽力しています。今後も、内視鏡医の育成支援、内視鏡を利用した早期診断・低侵襲治療・手技普及に力を入れ、患者さんのQOL向上に貢献してまいります。



MESDA腹腔鏡下肝臓手術ワークショップの様子
T-TECでのハイブリッドワークショップ(左)と
手術ライブデモのZoom配信(右)

*5 MESDA: Mekong Endo-Surgery Development Association (NPO法人)。日本・経済産業省、Medical Excellence JAPAN (メディカルエクセレンスジャパン)、日本内視鏡外科学会、日本の医科系を中心とした大学からなるアジア内視鏡人材育成支援大学コンソーシアム、在タイ日系企業コンソーシアム等が支援するオールジャパンプロジェクト

COLUMN

官民連携の取り組み～アジア諸国における社会課題の解決と医療発展への貢献～

インド、タイ、ベトナムなどのアジア地域では、がん罹患数の増加が社会的な課題となっており、がんの早期発見や治療に欠かせない内視鏡検査の需要増加が見込まれる一方で、内視鏡検査に必要な高い知識や技術を有する医師の数は不足しています。当社は、現地医師の育成を通して最新のAI技術を活用した内視鏡診断の有用性や普及の可能性を現実し、アジア地域における課題解決と医療の発展に貢献することを目的に、これまでインド、タイ、ベトナムにおける総務省のプロジェクトに参画しました。

2022年11月から2023年3月にかけて、ベトナムを代表する医療機関であるチョーライ病院および108病院において、サイバネットシステム株式会社の協力のもと、AIを搭載した内視鏡画像診断支援ソフトウェア「EndoBRAIN-EYE」*8の機能検証を行い、現地の医療環境における有用性や普及の可能性を現実しました。さらに、本プロジェクトの協力機関である昭和大学横浜市北部病院、静岡県立静岡がんセンターの医師が講師となり、上記施設を含む複数の医療機関のベトナム人医師に対して「EndoBRAIN-EYE」を用いた大腸内視鏡のトレーニングを実施し、AI診断支援システムを活用できる指導医の育成を支援しています。



ベトナムプロジェクトでの
キックオフ会議の様子



ベトナム・ホーチミンでの研修の様子

*8 通常の大腸内視鏡を用いて、病変が映っているかを推測することで医師の診断を補助する内視鏡画像診断支援ソフトウェア (製造販売元: サイバネットシステム株式会社)

詳しくはWEBをご覧ください
インドにおける取り組み: <https://www.olympus.co.jp/news/2020/nr01867.html>
タイにおける取り組み: <https://www.olympus.co.jp/news/2021/nr02180.html>
ベトナムにおける取り組み: <https://www.olympus.co.jp/news/2022/nr02441.html>